

『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2』（Back to the Future Part II）は1989年のアメリカ映画で、映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の続編。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』シリーズ3部作の2番目にあたる。SF映画。監督はロバート・ゼメキス。出演者マイケル・J・フォックス、クリストファー・ロイドシリーズの2作目と3作目は同時に製作され、6ヶ月間の間を空けて公開された。

あらすじ

1955年から1985年に帰還したマーティ・マクフライの目の前に、突然エメット・ブラウン博士（通称ドク）がデロリアンで現れた。未来においてマーティの息子がトラブルを起こし、それを起に未来のマクフライ家が破滅することが判明したという。それを回避するため、マーティとドクは彼のガールフレンド、ジュニファー共々30年後（=2015年10月21日）の未来にタイムトラベルするが、デロリアンが空中に炎の軌跡を残して消える瞬間を、ビフ・タネンが目撃していた。

2015年に着いたマーティは、将来的にジュニファーと結婚することと、彼女と自分の息子（マーティ・マクフライ Jr.）が弱く、だらしない性格で、ビフの孫であるグリフの言いなりになった挙句に窃盗容疑で捕まり、連鎖して娘が犯罪を犯し、マクフライ家の家族崩壊を引き起こしてしまうことを知る。ドクの作戦でマーティは息子本人になりすまし、グリフからの命令を断った。店内で喧嘩になり、ホバー・ボードによる追跡劇に発展するが何とか逃げ切り、マーティは息子が起こすはずだったトラブルをどうにか未然に防ぐことができた。未来からの帰りがけに、マーティは骨董品屋で1950年～2000年のスポーツの試合結果が書かれた年鑑を買いスポーツ賭博で一儲けを企むがドクに見つかり「お金儲けのためにタイムマシンを発明したわけじゃないんだ」と叱られてゴミ箱に投棄される。そうこうしている内に眠らせていたジュニファーが2015年の本人と勘違いされ、警官に護送されてしまい、マーティとドクは未来のマクフライ家へジュニファーを助けに向かう羽目になる。目覚めたジュニファーは未来の暗雲たる自身の家庭と夫婦生活を知り、更に未来の自身と遭遇してしまったジュニファーはまたも気絶、どうにかドクによって回収された。

しかし一連の流れを見ていたビフ・タネン老人がデロリアンがタイムマシンである事を知り、ゴミ箱からスポーツ年鑑を回収。さらに夜、マーティが油断している隙を突いてデロリアンを盗み、1955年にタイムトラベルして高校時代の若き日の自分に年鑑を手渡し、デロリアンを元の位置に戻す。

マーティたちは何も気づかずデロリアンで1985年の夜に戻ったが、マーティの家であるはずの場所には別の家庭が住んでおり、窓から家へ入ると不審者扱いされて叩き出されてしまう。未来の自分から渡された年鑑によってビフはスポーツ賭博で大金持ちになり、辺り一帯を牛耳る大地主になっていた。そればかりでなく、マーティの父ジョージは1973年にビフによって殺害され、母のロレインはビフと再婚させられていた。さらに、ドクは1983年に精神異常者として精神病院に入院させられているなど、2人にとって最悪の状況になっていた。全ての原因があつた年鑑があると気づいたマーティは、ビフの事業を記念する娯楽施設「娯楽のパラダイス」に行き、ビフの部屋で年鑑を手に入れた経緯を聞き出す。危うく射殺される所だったが、ドクの助けもあって何とか危機を脱したマーティは、ビフが年鑑を1955年11月12日に手に入れたことを掴んでいた。その日は折しも、マーティが時計台の落雷を利用して1985年に戻った日であった。自分達の未来を取り戻すため、ドクとマーティは再び1955年と旅立つ。